



九州大学バリアフリーシンポジウム開催のお知らせ

九州大学は、共生社会の創出を目指し、新しいバリアフリーの取組みを開始しました。本学ではこれまでも幅広い障害者支援に取り組んで参りましたが、さらなるバリアフリー環境の充実に向けて、平成30年度、障害者支援推進専門委員会のもとに「九州大学キャンパスバリアフリー検討研究会」を発足しました。研究会は、医学、心理学、発達障害学、色彩、視覚、音響、建築計画、都市計画、交通計画等の多様な分野を専門とする教員、および大学の施設計画、学生支援、環境安全管理を担う各部署の職員で構成されています。多くの学生や教職員が生活し、様々な来訪者が訪れる大学キャンパスは、まさに社会の縮図です。大学キャンパスで生活され多様なバリアに直面されている当事者の方々の目線に立ち、新しいバリアフリー環境のあるべき姿を探り、インクルーシブ社会のモデルとなる大学キャンパスを構築していくことが研究会の仕事です。

この度、研究会は、『九大バリアフリースタンドアが社会を創る』と題し、シンポジウムシリーズを開催することとなりました。開かれた議論の場を設けることにより、研究会の取組みを広く社会と共有することが目的です。第1回は、アートを通じた障害者支援の取組みである「だんだんボックス」の活動を展開されている九州大学芸術工学研究院の鶴飼哲矢准教授から話題提供をしていただき、研究会メンバーと会場の皆さんとのクロストークを予定しています。

参加費は無料となっておりますので（※要申込み）、皆さま奮ってご参加ください。

第1回 ダイガク×障害×だんだんボックス

- 【開催日】 平成31年1月12日（土）
- 【時間】 14時～16時30分（開場13時30分）
- 【場所】 九州大学伊都キャンパス 伊都ゲストハウス
- 【参加費】 無料（※要申し込み 下記の連絡先へ）
申し込み期限：平成31年1月11日（金）
（※当日の配慮や支援が必要な方は、1月7日（月）までにご連絡下さい。）



障害者アーティストが描く絵をデザインした「だんだんボックス」

- ◆当日は、ノートテイクおよび手話通訳による情報保障を予定しております。
- ◆プログラム詳細については別添資料をご覧ください。

ゲストレクチャー 鶴飼哲也

九州大学芸術工学研究院環境デザイン部門 准教授

1990年に東京大学工学部建築学科を卒業、1995～1997年に文化庁芸術家派遣在外研修員として英国留学、1997年に Architectural school of Architectural Association を卒業したのち、2001～2009年に東京大学建築学科助手を経て助教を勤める。

2009年、九州大学大学院芸術工学研究院環境設計学科・デザインストラテジー部門准教授に就任。

「だんだんボックス」の活動で、2011年グッドデザイン賞受賞。



【お申込み・お問い合わせ】 九州大学キャンパスバリアフリー検討研究会 羽野 暁
電話：092-802-3436 FAX：092-802-3435
Mail: hano-s@chc.kyushu-u.ac.jp

※年末年始のお申込み、お問い合わせについてはメールにて対応いたします。

『九大バリアフリースタダードが社会を創る』



第1回 ダイガク × 障害 × だんだんボックス

開催日 2019年1月12日[土]

時間 14:00～16:30 (開場 13:30)

会場 九州大学伊都キャンパス 伊都ゲストハウス

参加費 無料 (要申し込み)

申込期限 前日の2019年1月11日まで
(当日の配慮や支援が必要な方は、1月7日までにご連絡下さい)

障害者アーティストが描く絵をデザインした「だんだんボックス」

九州大学は、共生社会の創出を目指し、新しいバリアフリーの取組みを開始しました。九州大学はこれまで幅広い障害者支援に取り組んで参りましたが、さらなるバリアフリー環境の充実に向けて、平成30年度、障害者支援推進専門委員会のもとに「九州大学キャンパスバリアフリー検討研究会」を発足しました。研究会は、医学、心理学、発達障害学、色彩、視覚、音響、建築計画、都市計画、交通計画等の多様な分野を専門とする教員、および、大学の施設計画、学生支援、環境安全管理を担う各部署の職員で構成されています。多くの学生や教職員が生活し、様々な来訪者が訪れる大学キャンパスは、まさに社会の縮図です。大学キャンパスで生活される多様なバリアに直面されている当事者の方々の目線に立ち、新しいバリアフリー環境のあるべき姿を探り、インクルーシブ社会のモデルとなる大学キャンパスを構築していくことが研究会の仕事です。

この度、研究会は、『九大バリアフリースタダードが社会を創る』と題し、シンポジウムシリーズを開催することに致しました。開かれた議論の場を設けることにより、研究会の取組みを広く社会と共有することが目的です。第1回は、アートを通じた障害者支援の取組みである「だんだんボックス」の活動を展開されている九州大学芸術工学研究院の鶴飼哲矢准教授から話題提供をしていただき、研究会メンバーと会場の皆さんとのクロストークを予定しています。

第1部

14:05～14:45

九州大学の障害者支援に関する取組みの紹介

第2部

14:50～15:20

講演「だんだんボックスの活動について」

鶴飼哲矢 Tetsuya Ukai
九州大学芸術工学研究院 准教授障害者のアートを通じた自立支援
「だんだんボックス」の活動に取り組む
2011年にグッドデザイン賞受賞

第3部

15:25～16:25

研究会メンバー × 鶴飼准教授 クロストーク



©Ozaki

『九大バリアフリースタダードが社会を創る』

第1回 ダイガク × 障害 × だんだんボックス

プログラム

- 13:30 開場
- 14:00 開会挨拶 丸野俊一理事・副学長
- 14:05 ~ 14:45 九州大学の障害者支援に関する取組みの紹介
- ① 障害者支援体制の紹介 田中真理教授
 - ② 研究会の紹介 樋口明彦准教授
 - ③ 研究会メンバーの紹介 羽野暁特任助教
- 14:45 ~ 14:50 ~ 5分間の休憩~
- 14:50 ~ 15:20 講演「だんだんボックスの活動について」鶴飼哲矢准教授
- 15:20 ~ 15:25 ~ 5分間の休憩~
- 15:25 ~ 16:25 クロストーク 鶴崎直樹准教授・横田晋務准教授・須長正治准教授 × 鶴飼哲矢准教授
モデレーター 樋口明彦准教授
- 16:25 閉会挨拶
- 16:30 閉会



プログラムの全般において、ノートテイク、および、手話通訳による情報保障を予定しています

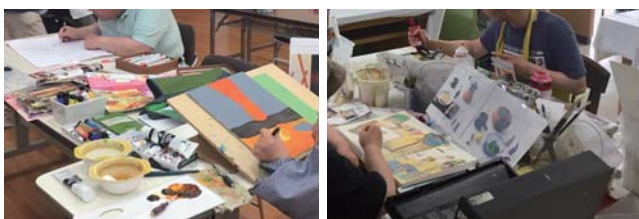
ゲストレクチャー

鶴飼哲矢 九州大学芸術工学研究院環境デザイン部門 准教授

1990年に東京大学工学部建築学科を卒業、1995~1997年に文化庁芸術家派遣在外研修員として英国留学、1997年に Architectural school of Architectural Association を卒業したのち、2001~2009年に東京大学建築学科助手を経て助教を勤める。2009年、九州大学大学院芸術工学研究院環境設計学科・デザインストラテジー部門准教授に就任。2010年より障害者のアートを通じた自立支援「だんだんボックス」の活動に取り組む。「だんだんボックス」の活動で、2011年グッドデザイン賞受賞。

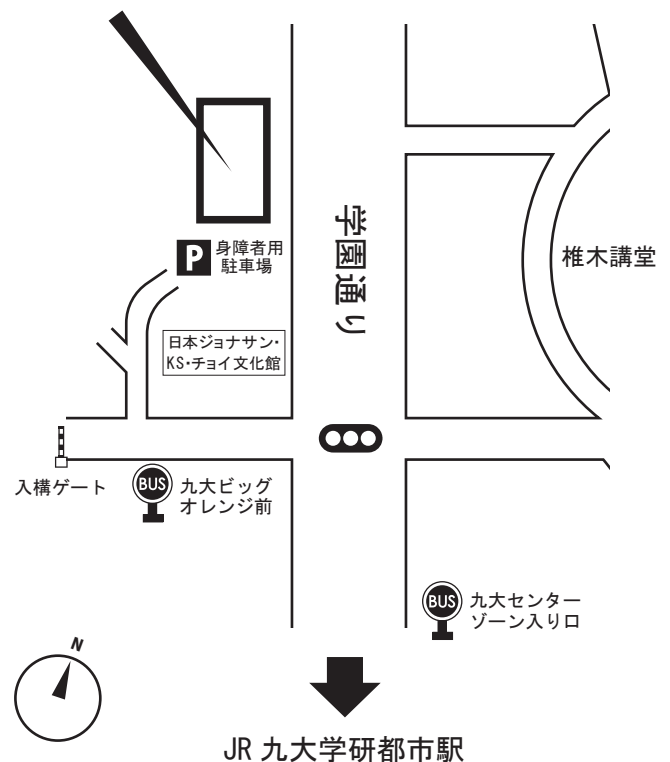
『だんだんボックスとは』

障がいを持ちながらも素晴らしい絵の才能を持つアーティストたちの作品が人から人へと贈る段ボールの箱になって、地域の名産、プレゼント、企業の商品など、人の思いを「ありがとう」の気持ちで包みながら全国へ移動する、今までにない試みです。持続的な経済活動としてしっかりと成立することが、コンセプトです。自らが経済活動を伴って社会参加することにこそ、誰にとっても真の生きがいがあると考え、それがだんだんと広がるように応援するプロジェクトです。(一般社団法人だんだんボックス公式ホームページ <http://www.dandanbox.com/> より)



会場の位置

会場『伊都ゲストハウス』



ホームページ

Eメール

申込み・問い合わせ 担当：羽野 (はの)

電話：092-802-3436 Fax：092-802-3435 メール：hano-s@chc.kyushu-u.ac.jp

